

(6) 人間と社会教育部会

教育部会名	人間と社会
部会長名／作成者名	西澤晃彦
概 要 (2 ページ)	
<p>(1) 組織・運営について</p> <p>「人間と社会」教育部会は、1 機構・3 研究科を主体に、非常勤講師を含む 37 名から構成され、基礎教養科目として社会科学系の「社会学」、「教育社会学」、「地理学」、総合教養科目として「社会思想史」、「文化人類学」、「現代社会論 A」、「現代社会論 B」、「越境する文化」、「生活環境と技術」、の 9 科目を担当している。機構及び研究科ごとに、教員の専門領域に応じた担当授業配分がなされており、当該部局のルールによって授業担当者を決め、全体的な調整は部会長（1 名）、幹事（2 名）が取りまとめている。当部会の組織構成と運営は適切に整備され、うまく機能し続けている。</p> <p>(2) 実施状況について</p> <p>本教育部会は、社会に関する広い視野と深い洞察力を身に付けることを学習目標として、①人文・社会科学のディシプリン（社会学、文化人類学、地理学、社会思想史、教育社会学）、および②現代的あるいは学際的諸課題（現代社会論、越境する文化、生活環境と技術、）の双方を視野に入れ、多岐にわたる授業科目を提供している。本教育部会が提供する授業の目標は、シラバスにも見られるように全学共通授業科目の科目区分ごとの教育目標に対応しており、授業担当者は到達目標を共通目標に沿ったものにするよう配慮している。また、いずれも個々の学問分野の導入的な内容になっている。授業内容は、概ねシラバスに沿って展開されている。</p> <p>教育の目的に照らして、講義、演習、実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切な、それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されている。本年度は、対面での授業が主となった。対面への移行が進んだ後も単に「前に戻す」のではなく「コロナ禍」における経験を生かした授業の改善がなされている。自主学習を促す BEEF を利用した資料や課題の提示や、双方向性を高めるコメントの提出とそれへの応答などが進められた。</p> <p>「遠隔から対面へ」の移行という困難な状況にあって、個々の教員は、資料配布や映像・音声資料等の活用などによって教育効果を高めるよう取り組んできたし、また前述のように、双方向性を高める工夫も向上したといえる。「コロナ禍」における経験を踏まえつつ、オンデマンド型の授業の可能性を模索するなど、多様な方向での「よりよい授業」の探求も準備されている。</p> <p>(3) 課題について</p> <p>最大の課題は、遠隔授業後の体制を安定させることにある。(2) でも述べたように、それはただ単に「元に戻す」ことではなく、「コロナ禍」における経験や技術を生かしたものにしていかなければならないだろう。移行期であったためにこの段階で結論づけることは難しく、今なされている様々な工夫の効果について分析を進めていく必要がある。</p> <p>また、「コロナ禍」以前からの積み残された問題についても、再度、議論がなされるべきだろう。クォーター制度における「7.5」回という授業回数にどのような内容を流し込むことができるのかは、授業担当者にとってやはり難問である。科目によっては、 Semester 制に適合するものもある。この点について、放置して済ますことは望ましいことではない。また、遠隔授業が終わって、教室の規模と履修者数についても再び検討される必要があるだろう。</p>	

(4) 総合所見

部会としては、これまで一貫して、シラバスの統一性の向上、授業評価アンケート結果の分析と課題の洗い出し、アクティブラーニング・体験型学習の具体的な効果の分析と授業改善への取り組み、クォーター制・セメスター制のメリットとデメリットの分析と授業改善への努力という様々な課題に対して取り組んできたのであり、それらについては成果を得てきた。「コロナ禍」という状況にあって、個々の教員は対応に追われたが、対面授業下での授業改善においても生かすことができる工夫・技術はかえって得られたように思われ、よりいっそうの取り組みを進めていきたい。

A 組織構成と運営体制について

- ①基本的な組織構成が適切であり、実施体制・運営体制が適切に整備され、機能しているか (100字程度)

機構および研究科ごとに教員の専門領域に応じた担当授業配分がなされており、当該部局のルールによって授業担当者を決め、全体的な調整は部会長(1名)、幹事(2名)が取りまとめをしている。当部会の組織構成と運営は適切に整備され、機能している。

根拠資料

教育部会構成員名簿

B 内部質保証について

- ①学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を組織的に行っているか (100字程度)

自主学習を促す BEEF を利用した資料や課題の提示や、双方向性を高めるコメントの提出とそれへの応答などを取り入れた授業が行われている。また、各クォーター末の「授業振り返りアンケート」より、学生を含む関係者等からの意見を体系的、継続的に収集、分析し、その意見を反映した取組を行っている。

根拠資料

授業振り返りアンケート結果

- ②自己点検・評価によって確認された問題点を改善するための対応措置を講じ、計画された取組が成果をあげている、又は計画された取組の進捗が確認されている、あるいは、取組の計画に着手していることが確認されているか (150字程度)

自己点検・評価報告書を周知し、個々において問題点を改善するべく努力している。シラバスに表れているように、改善のための工夫が着実に試みられている。

根拠資料

前年度までの自己点検・評価報告書、シラバス (今年度の工夫)

- ③授業の内容及び方法の改善を図るためのFDを組織的に実施しているか (100字程度)

ピアレビューを部会として実施し、計画的に取り組んできている。

根拠資料

ピアレビュー (授業参観) 実施に関するガイドライン、ピアレビュー実施科目一覧 (教養教育委員会資料)

- ④教育活動を展開するために必要な教育支援者や教育補助者が配置され、適切に活用されるとともに、それらの者が担当する業務に応じて、研修の実施など必要な質の維持、向上を図る取組を組織的に実施しているか (100字程度)

TAなどを配置し、教育活動を展開するために必要な教育補助者を適切に活用している。それらの者が担当する業務に応じて、必要な質の維持、向上を図る取組を踏っている。

根拠資料

C 教育課程と学習成果について

- ①当該教育部会が提供する授業の目標が、全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものであるか（100字程度）

「人間と社会」教育部会は、社会に関する広い視野と深い洞察力を身につけることを学習目標として、①人文・社会科学のディシプリンおよび②現代的諸課題の双方を視野に入れ、多岐にわたる授業科目を提供しており、それぞれの授業の目標が全学共通授業科目の区分ごとの学修目標に対応したものである。

根拠資料

シラバス

- ②授業担当者に共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされているか（100字程度）

授業担当者を始めとする部会員には部会長と幹事を通じて自己評価報告書や外部評価報告書を周知し、共通目標や学部からの要請を示し、到達目標をそれに沿ったものにする配慮がなされている。この点について、特に問題は生じていない。

根拠資料

シラバス

- ③授業科目の内容が、共通目標や個々の到達目標を達成するものとなっているか（100字程度）

授業担当者に周知されており、各授業科目の内容は、共通目標や個々の到達目標を達成するものとするべく、個々において配慮されている。この点について、特に問題は生じていない。

根拠資料

シラバス

- ④単位の実質化への配慮がなされているか（100字程度）

個々の授業において、自主学習を促す BEEF を利用した資料や課題の提示や、双方向性を高めるコメントの提出とそれへの応答などが進められた。「コロナ禍」状況のもと、単位の実質化は特に重要な課題として取り組まれた。

根拠資料

シラバス、配布された資料、コメント等

- ⑤教育の目標に照らして、講義、演習、実験、実習等の授業形態の組み合わせ・バランスが適切であり、それぞれの教育内容に応じた適切な学修指導法の工夫がなされているか（150字程度）

適切な授業形態・学習指導方法については、それぞれの教員において模索されてきた。シラバスに表れているように、改善のための着実な努力がなされている。

根拠資料

シラバス

- ⑥シラバスに、必須項目として「授業名、担当教員名、授業のテーマ、授業の到達目標、授業形態、授業の概要と計画、成績評価方法、成績評価基準、履修上の注意（関連科目情報）、事前・事後学修」及び「教科書又は参考文献」が記載されており、学生が書く授業科目の準備学修等を進めるための基本となるものとして、全項目について記入されているか（50字程度）

各項目について概ねこまかく予告、解説されている。

根拠資料
シラバス

⑦学生のニーズに応え得る履修指導の体制を組織として整備し、指導、助言が行われているか（100字程度）

学生への履修指導は適切に行われていると考えている。大教室での指導、助言には限界があるがそれを補うべく、BEEFを活用しての双方向性を確保する試みが進められている。

根拠資料
シラバス、配布資料、授業振り返りアンケート結果、コメント等

⑧学生のニーズに応え得る学習相談の体制を整備し、助言、支援が行われているか（100字程度）

⑦と同様に、学習相談についても適切に行われていると考えている。大教室での指導、助言には限界があるがそれを補うべく、BEEFを活用しての双方向性を確保する試みが進められている。

根拠資料
シラバス、配布資料、授業振り返りアンケート結果、コメント等

⑨成績評価基準及び成績評価方針に従って、公正な成績評価が厳格かつ客観的に実施されているか（100字程度）

成績評価基準についてはシラバスに明示されている。そして、その基準に則った成績評価が適切に実施されている。また、成績評価基準を授業時に受講生に対し詳しく説明するなどの工夫も行われている。科目単位での成績分布を確認し、適正でない場合には、適正な分布になるように促すよう努めており、概ね適正である。

根拠資料
シラバス、試験答案、成績分布(教養教育委員会資料)

⑩学修目標に従って、適切な学修成果が得られているか（100字程度）

各教員の努力と創意工夫により、受講生の学習成果が上がるよう努力されている。試験、レポート、授業振り返りアンケートの結果、コメント等を見ても、適切な一定の学習成果をもたらすことができていると考える。

根拠資料
試験答案、レポート、授業振り返りアンケート結果